

2025 April 8-13, May 15-19

ボストン（Massachusetts General Hospital：MGH, Brigham and Women's Hospital：BWH）でのミーティングにて、先月に続いてお休みを頂きました。

それぞれの病院は Harvard Medical School の教育病院としての重要な医療機関であり、様々な分野で世界をリードしています。自身が Fellowship を経験（2003-2006：写真右下）した MGH の移植外科では異種移植でのアプローチを主体としており、豚（臓器提供が少ない理由）からの臓器提供を用いたキメラを得意としており、2008 年から Faculty を務めている BWH Transplant Center では Division Chief の Dr. Murray が 1990 年にノーベル生理学・医学賞を受賞

（世界初の腎移植性成功）した経緯にもある様にこれまでもアメリカのみならず世界の移植学会を牽引している立場にあります。この数年の話題としては、豚ドナーの腎臓を用いた生体への腎移植（MGH）や外傷による顔の損傷を受けた患者さんへの Face transplant（BWH）がトピックと言えるかもしれません。



MGH では旧友の Dr. Eilas, Assistant Prof. of Surgery（左下）と異種移植の近況や BWH では Dr. Abdi, Professor of Medicine（中央）免疫抑制剤のトピックに関して話が尽きず、あっという間の滞在でした。



東京医大での移植医療においては本邦でも TOP10 に入る移植症例数を誇っており、今回のミーティングを含めた情報や移植管理のトピックはスタッフのブラッシュアップになり、世界の潮流を知るいい機会になる

筈です。そして患者さんへのより良い治療手段の選択や説明に繋がる事と思います。